

持続可能な地域社会における外部者との関係性マネジメント

Relationship Management with Extra-regional Visitors for Local Areas

1 行空ける

10 ぽ, Times, 太字, 最大 2 行

10 ぽ, 明朝, 右寄せ, 発表者は太字

敷田 麻実*・森山 昌之**

10 ぽ, Times, 右寄せ

SHIKIDA, Asami MORIYAMA, Masayuki

1 行空ける

キーワード: サステイナブルツーリズム、よそ者、地域社会、自律的な依存

2 行空ける

10 ぽ, 明朝, 太字

10 ぽ, 明朝, 3~5 語, 最大 1 行

1. 目的

10 ぽ, ゴシック, 太字, 数字半角

現在の観光において、持続可能性は重要なテーマである。同時に、地域主体の観光が重要であると主張され、「自律的観光」の実現が観光目的地の課題となっている。しかし、マスツーリズムに代表される大規模な観光システムによって地域は「他律的観光」を余儀なくされ、持続可能な観光の実現も滞りがちである。本研究では、地域の観光関係者が地域外の観光事業者や観光客を含む「地域外観光システム」との関係性を主体的に構築し、自律的にマネジメントすることで持続可能な観光の実現につなげるためのアプローチを提案する。

1 行空ける

2. 背景

マスツーリズムは誰でも参加でき、また大量の観光客を扱う観光として 1960 年代以降、観光現場を席卷してきた。その結果、観光目的地では観光活動による地域への負荷が高まり、無視できなくなった。こうした事例は各地で報告され、またその緩和策が課題となってきた。そこでマスツーリズムの持つ地域社会や経済・環境への影響を緩和しようとする「新しい観光」が模索された。その代表例はエコツーリズムである。こうした動きは 1990 年代以降、持続可能な発展や産業・企業のグリーン化という社会的圧力を受け、「持続可能な観光(サステイナブルツーリズム)」をめざすことに引き継がれた。しかし実際の観光地では、大規模な地域外観光システムの影響を受けているため、地域側が主体的に地域観光システムを変化させることが難しい。特に地域経済における観光収入の依存度が高い場合、観光客数の減少につながる施策は選択しにくい。

4. 地域内外の観光システムの関係

前述した地域外観光システムへの依存傾向は、マーケティングや集客、さらには経営指導にまでも及んでいる。それは図-1(A)に示すように、地域外観光システムが地域観光システムを包含している状態と考えられる。一方、自律的観光ではこの関係が図-1(B)のようになり、地域外観光システムとの関係をマネジメントできるようになる。

1 行空ける

地域外観光システム

地域観光システム

(A) 地域外観光システムの依存状態にある地域観光システム

10 ぽ, ゴシック

地域外観光システム

地域観光システム

関係性をマネジメントする地域観光政策

(B) 地域外観光システムと自律的關係にある地域観光システム

図-1 地域内外の観光システムの関係

5. 自立から自律へ

地域の観光をマネジメントするという考えは、地域外の大規模な観光システムに地域が依存した(できた)マスツーリズムでは必要性が低かった。特に比較的安定した経済状況や経済規模の拡大期には、大きな問題にはならなかった。しかし、1990年以降に起きたバブル崩壊や大規模な観光リゾート開発の失敗、地域経済の停滞による観光需要の変化などによって問題が露見し、地域外観光システムが地域に深刻な問題を起こすと、その原因は「地域外への過度の依存」だとされた。そのため、大規模な地域外観光システムへの地域観光システムの依存が持続可能な観光の実現を阻害するとして原因として批判され、持続可能な観光の実現のために地域観光システムの「自立」が必要であるという主張が生まれた。また、「新しい観光」に代表される、エコツーリズムなどの取り組みを始める地域が増えた。しかし前述したように、現実には大規模な地域外観光システムから地域観光システムが分離・独立することは難しく、地域で自己完結する「自立的な観光」の実現は難しい。その理由は、そもそも観光は予測が難しい現象であり、地域外観光システムに比べて規模の小さい地域観光システムはそのリスクを負担できない。また情報システムの発達によって地域外観光システムの新たな「コントロール」も広がっている。さらにインターネットの普及で、観光の知識や情報を豊富に備えた「新しい観光客」が生み出されているが、地域だけでは彼らに十分対応できないからである。以上のように地域外観光システムから地域が自立するという選択の実現度は低い。そこで地域外観光システムからの自立(独立)をめざすのではなく、地域外観光システムとの関係を主体的に構築し、それを維持するマネジメントが求められる。その具体的な姿は、地域観光システムが地域外観光システムと適度な依存関係を保ちつつ、持続可能な観光の実現をめざすことであり、地域観光システムの自律的デザインであろう。このような自立でも依存でもない、いわば「自律的な依存」戦略を地域が採用することで、地域外観光システムとの関係に配慮しながらマネジメントできるようになる。このようなアプローチは、地域外観光システムのマーケティング力やノウハウを否定せず、それを適宜取り入れながら、地域観光システムを進化させることであり、地域外観光システムとの創発的な関係維持である。

6. 戦略に必要なツールとその可能性

「自律的な依存」を基本とした関係性のマネジメントを実現するには、地域観光システム側にそれを進めるための主体となる組織、それに伴う方針としくみが必要である。以上のように、地域外観光システムとの関係性を意識しながら、自立でも依存でもない「自律的な依存」戦略を地域観光システムが選択できれば、持続可能な観光を実現できるだろう。

【参考文献】 ←

10 号, ゴシック

参考文献の記載は、和文誌投稿規定に従う

敷田麻実・森重昌之 (2001a) 観光の一形態としてのエコツーリズムとその特性. 「エコツーリズムの総合的研究(国立民族学博物館調査報告 23)」(石森秀三・真板昭夫, 編), pp.83-100, 国立民族学博物館, 239p, 大阪.

敷田麻実・森重昌之 (2001b) エコツーリズムによる地域の持続的発展の可能性—石川県白山麓のケーススタディから見た「環境に優しい観光」の未来—. 環境経済・政策学会年報 6: 200-215.

敷田麻実・森重昌之 (2001c) エコシステムマネジメントにおけるエコツーリズムの役割と発展メカニズム. 日本観光研究学会第 16 回全国大会論文集: 133-136.

野中郁次郎・竹内弘高(梅本勝博訳) (1996) 「知識創造企業」. 東洋経済新報社, 401p, 東京. McLain, R. J. and R. G. Lee (1996) Adaptive Management: Promises and Pitfalls. Environmental Management 20(4): 437-448.

佐藤仁 (2002) 「希少資源のポリティクス」. 東京大学出版会, 254p, 東京.

Savage, M. (1993) Ecological Disturbance and Nature Tourism. The Geographical Review 83(3): 290-300.

罫線を引く